

高等学校における「教科指導の配慮や工夫」の充実のために

企画者	大橋 智（明星大学心理学部支援室）
司会者	大橋 智（明星大学心理学部支援室）
話題提供者	原健太郎（東京理科大学大学院理学研究科科学教育専攻・県立高等学校教諭） 小栗貴弘（作新学院大学女子短期大学部幼児教育科・県立高等学校 SC） 矢野善教（江戸川大学総合福祉専門学校・県立高等学校巡回相談員）
指定討論者	若林上総（独立行政法人 国立特殊教育総合研究所）

KEY WORDS: 高等学校 ・ 教科指導の配慮や工夫 ・ 普遍的予防

【企画趣旨】

文部科学省による「高等学校における発達障害支援モデル事業」の指摘する「障害特性に応じた教科指導の配慮や工夫」の実績を積み重ねることは、高等学校における特別支援教育の波及において、欠くことができないだろう。

「障害特性に応じた教科指導の配慮や工夫」については、各教科に共通する配慮として、板書や配布物であるプリントなど学習環境面への配慮が、様々な実践において指摘されている。一方で、定時制高校など心理・教育両面からの配慮の求められる生徒が多数在籍する学級の運営や、授業内での指導では十分な積み重ねが難しい生徒、教員間の学習方法・評価についての意識共有、小中学校に比べて保護者や関係機関との連携が困難な支援体制の課題など、多面的な課題を抱えている状況にある（田部,2011）。

本シンポジウムでは、高等学校の授業内における配慮を必要とする生徒への教科指導上の支援実践について、教職員や巡回相談員の立場から話題提供と議論を行いたい。

【話題提供者の趣旨】

【話題提供者 教員として】 原健太郎

夜間定時制高校は、勤労学生だけでなく、多様な問題を抱えた生徒の学びの場として展開されている。夜間定時制高校に数学科教員として勤務しているが、障害を抱えている生徒が多く在籍していることを感じている。しかし、本人・保護者はその事実を受け入れていない場合がほとんどである。

教科指導において、ノートやプリントへの記入が正しくできない生徒、授業内容の理解・定着が図れない生徒が多く、教科指導者としては多様な困難に直面している。特に、特別支援学校ではない高等学校においては障害の特性も多様であり、一つの障害特性に応じた授業展開では成り立たないという現実がある。

このような生徒群を対象とした学習環境においては「個に応じた支援」という視点だけでなく、「集団に対する支援」という観点をもって教科指導を行っていく必要があると考える。本シンポジウムでは、そのような指導場面での配慮の仕方や工夫すべき点について議論していきたい。

【話題提供者 スクールカウンセラーとして】 小栗貴弘

埼玉県では平成 24 年度から「定時制高校自立支援プログラム事業」が始まり、県内定時制高校にスクールカウンセラー（以下 SC）やスクールソーシャルワーカーが配置され、話題提供者はその初年度から夜間定時制高校に SC として勤務している。そして、夜間定時制高校での臨床を続けるうちに、高校中退予防に関心を持ち、継続的に研究を行ってきた（た

例えば小栗, 2014）。研究の中では予防を「普遍的予防」「選択的予防」「指示的予防」の三段階に分類し、「包括的な高校中退予防プログラム」の開発を目指している。

「普遍的予防」とは、全生徒を対象とした予防的介入のことであり、本プログラムでは教員による「ソーシャルスキル」と「学習スキル」の一斉授業を主軸としている。本シンポジウムでは、話題提供者が関わった高校での「ソーシャルスキル」の授業と、「学習スキル」の授業について報告し、「教科指導」を補う実践について検討したい。

【話題提供者 巡回相談員として】 矢野善教

高等学校の特別支援教育に関する事業は、平成 19 年度に文部科学省により「高等学校における発達障害支援モデル事業」が開始され、高等教育において発達障害を抱える生徒の実態調査が実施されるようになった。ある自治体においても「共生社会の形成に向けた特別支援教育推進事業」を平成 25 年度から開始している。その中で、高等学校拠点校を指定し、拠点校を中心とした専門家による巡回支援を活用している。

巡回支援では、授業観察や教員との情報共有などを中心に展開している。平成 30 年度から高等学校における通級の制度が開始される中で、高等学校は歴史上、生徒指導中心の関わりが多く存在しており、特別支援教育による関わりが喫緊の課題となっている。高等学校における特別支援教育を必要とする生徒は、福祉・就労という視点も重要視され、高等学校卒業後の継続的な移行支援が必須である（内野,2009）。

本シンポジウムでは、報告者が高等学校の巡回支援において関わった事例を報告するとともに、今後の高等学校における外部専門家による巡回支援の在り方および方向性について検討していきたい。

【文献】

- 内野智之. (2009) 高等学校における発達障害生徒の困難・ニーズの実態と特別支援教育構築に関する研究. 博士(教育学)学位論文, 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科.
- 小栗貴弘 (2014). 定時制高校の中退学予防に関する実践研究 - 包括的な予防プログラムの開発を目指して - 目白大学心理学研究, 10, 55-69.
- 田部絢子. (2011) 高校における特別支援教育の動向と課題. 特殊教育学研究, 49:3 317-29.

(OHASHI Tomo, HARA Kentaro, OGURI Takahiro, YANO Yoshinori, WAKABAYASHI Kazusa)